

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人体構造機能学Ⅱ	NSF11_002	必修	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
小川 麻里子	教員控室	m.ogawa	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	人体構造機能学Ⅱでは、身体機能の司令塔として最も重要な脳を含む神経系の構造と機能、自律神経や内分泌による声帯の調節機構を理解する。加えて泌尿器系の構造、尿の生成・細胞外液の調節・排尿機能を理解する。また、人体の解剖見学を通して人体各部の組織と構造の位置関係を理解し、これまで学んできた学習を深めるとともに人体構造機能学ⅠⅢに結び付ける。上記について遠隔授業や課題学習等を通して理解し、その後の授業においてフィードバックや意見交換を行い理解を深める。				
学習上の助言	本科目は、医療従事者にとって基礎となる科目であるため予習・復習が重要である。また、授業内容に関する質問は、授業中および授業前後に受け付けているので積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 第10版/著:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2018 ・「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック/編:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2019 [2冊指定]				
参考書	・人体の構造と機能 第5版/編:内田さえ、佐伯由香、原田玲子/医歯薬出版/2019 ・なるほどなつく!解剖生理学 改訂2版/著:多久和典子、多久和陽/南山堂/2019 ・看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版第5刷/編:日本生理学会教育委員会/医学書院/2019				
学生が達成すべき行動目標					
①	泌尿器系の構造を理解し、体液量の調整(尿の生成)、浸透圧調整について説明できる。	HSU (1) (2)、NS (1)			
②	自律神経やホルモンの作用について説明できる。	HSU (1) (2)、NS (1)			
③	脳の構造について理解し、その機能について説明できる。	HSU (1) (2)、NS (1)			
④	脊髄の構造について理解し、各伝導路について説明できる。	HSU (1) (2)、NS (1)			
⑤	中枢神経と末梢神経の構造を理解し、神経ネットワークによる身体調節を説明できる。	HSU (1) (2)、NS (1)			
⑥	ヒトが受精卵として始まることから老化・死に至る身体の変化について説明できる。	HSU (1) (2)、NS (1)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	体液の調節と尿の生成①:腎臓について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p232~248、ワーク p58~61をノートにまとめる。	1	
2	体液の調節と尿の生成②:排尿路について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p248~253、ワーク p62をノートにまとめる。	1	
3	体液の調節と尿の生成③:体液の調節について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p253~260、ワーク p63をノートにまとめる。	1	
4	体液の調節と尿の生成のまとめ	同時双方向型授業	教科書 p232~260、ワーク p58~63を確認する。	1	
5	生殖・発生と老化①:男性生殖器について学ぶ	同時双方向型授業	教科書 p494~500、ワーク p104をノートにまとめる。	1	
6	生殖・発生と老化②:女性生殖器について学ぶ	同時双方向型授業	教科書 p500~510、ワーク p105~107をノートにまとめる。	1	
7	生殖・発生と老化③:受精と胎児の発生について学ぶ	同時双方向型授業	教科書 p510~526、ワーク p108~109をノートにまとめる。	1	
8	生殖・発生と老化④:成長と老化について学ぶ	同時双方向型授業	教科書 p526~536をノートにまとめる。	1	
9	生殖・発生と老化のしくみのまとめ	同時双方向型授業	教科書 p494~536、ワーク p104~109を確認する。	1	
10	情報の受容と処理①:神経系の構造と機能について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p384~394、ワーク p88~89をノートにまとめる。	1	
11	情報の受容と処理②:脊髄と脳について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p395~409、ワーク p90~92をノートにまとめる。	1	
12	情報の受容と処理③:脊髄神経と脳神経について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p409~418、ワーク p92~93をノートにまとめる。	1	

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

13	情報の受容と処理④:脳の高次機能について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p418~430、ワーク p93をノートにまとめる。	1			
14	情報の受容と処理⑤⑥:運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p431~435、ワーク p94をノートにまとめる。	1			
15	情報の受容と処理①~⑤のまとめ	同時双方向型授業	教科書 p384~435、ワーク p88~94を確認する。	1			
16	内臓機能の調節①:自律神経による調節について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p262~272、ワーク p64~66をノートにまとめる。	1			
17	内臓機能の調節②:内分泌系による調節について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p272~277、ワーク p67をノートにまとめる。	1			
18	内臓機能の調節③:全身の内分泌腺と内分泌細胞について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p277~299、ワーク p67~69をノートにまとめる。	1			
19	内臓機能の調節④⑤:ホルモン分泌の調節とホルモンによる調節の実際について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p299~306、ワーク p70~71をノートにまとめる。	1			
20	内臓機能の調節のまとめ	同時双方向型授業	教科書 p262~306、ワーク p64~71を確認する。	1			
21	「肉眼解剖学実習」に向けた学習:筋・骨格・神経系の復習を行う。	同時双方向型授業	教科書 p8~27、308~435、ワーク p6~7、72~94を確認する。	1			
22	「肉眼解剖学実習」に向けた学習:消化器系の復習を行う。	同時双方向型授業	教科書 p64~106、ワーク p16~29を確認する。	1			
23	「肉眼解剖学実習」に向けた学習:呼吸器系の復習を行う。	同時双方向型授業	教科書 p108~165、ワーク p30~41を確認する。	1			
24	「肉眼解剖学実習」に向けた学習:循環器系の復習を行う。	同時双方向型授業	教科書 p168~229、ワーク p42~57を確認する。	1			
25	「肉眼解剖学実習」に向けた学習:泌尿器・生殖器系の復習を行う。	同時双方向型授業	教科書 p231~306、494~510、ワーク p58~71、104~105を確認する。	1			
26	「肉眼解剖学実習」に向けた学習:感覚器系の復習を行う。	同時双方向型授業	教科書 p435~460、ワーク p95~99を確認する。	1			
27	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布したプリントを確認する。	1			
28				1			
29				1			
30				1			
試	筆記試験 達成度評価・評価のポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10	

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

評価のポイント		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法	
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	定期試験（70%）で評価する。定期試験では、各単元の基礎知識を問う問題とし、教科書・ワークブック・授業毎に配布するプリントから出題する。	テスト結果の開示を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポータル	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	各回の授業で提示する課題の提出において「提出期日厳守の提出で1点」、「全項目の実施で1点」の計2点×15回の30点満点で評価する。 ワークやノートの提出は任意とし、定期試験時にまとめて提出した場合には加点する。（期日厳守の提出で各2点、全範囲の実施で各3点の計10点上限）とする。	提出課題にフィードバックを記載し、返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		

備 考

**教員の実務経験：**作業療法士免許を有した後、10年以上の臨床経験を有する。また、解剖学専攻にて医学博士を取得している。  
**実践的授業の内容：**教科書に基づいた講義だけでなく、教員の臨床経験を活かして実際の疾患や症状、障害など事例を挙げながら講義し、臨床での視点の一部を学ぶ。また、質問や意見交換を通じて他者とのコミュニケーションスキルも身に付ける。

「肉眼解剖学実習」は、山梨大学医学部解剖学実習室において実施予定。詳細は、後日連絡する。

提出課題に関して、インターネットや友人からのコピー、教科書の丸写し等は不可とし、これらが発覚した際には未提出とし、再提出を求める。

Teamsを使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWifi環境を推奨します。また、動画視聴や課題のダウンロード等がありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分注意してください。

Teamsクラスへの入室が5分以上遅れた場合は、遅刻扱いとし、授業開始20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。